

「宗門寺院と戦争・平和問題」調査報告(その3)

「戊辰・西南の国内戦争と寺院」

新田光子 (戦時被災等調査委員会委員
戦時調査室調査担当)

渡辺慶子 (戦時被災等調査委員会
戦時調査室調査研究員)

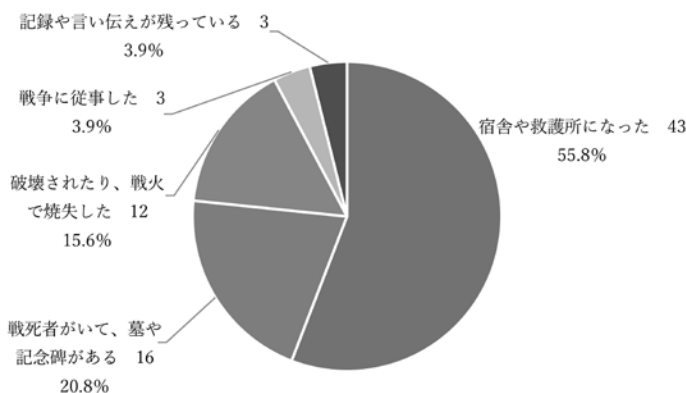
「宗門寺院と戦争・平和問題」調査をすすめております「戦時調査室」では現在、全寺院対象の郵送調査票で記入していただいたご回答を分析しております。今号では調査票の冒頭部分でお尋ねしました「戊辰戦争・西南戦争の時代」と寺院の関わりについて、回答結果の概要を報告させていただきます。

1、調査票回答の集計

調査票でお尋ねしましたのは、「戊辰戦争・西南戦争では各地の寺院が兵士の宿舎や救護所に利用され、その記録や言い伝え、遺跡などが残っています。貴寺院にそのような事績はありませんか」でした。図表1は、あると回答があった77件を集計したものです。

回答のうち、「宿舎や救護所になった」という回答が全体の半数以上を占めています。「戦死者がいて、墓や記念碑があります。」

図表1 「戊辰戦争・西南戦争の事績」回答



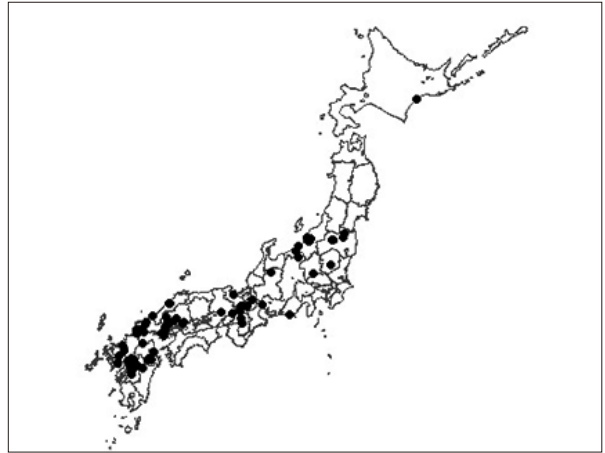
「破壊された」という回答が約20%、「戦死者がいて、戦火で焼失した」という回答が約15%を占める割合です。これらの回答を地域ごとに見ると、図表2のとおりです。全国に広く分布していることがわかります。

東日本における戊辰戦争との関わり、
 関西における鳥羽・伏見の戦いとの関わり、
 寺院がこれらの戦いに大きく関わったことがうかがえます。

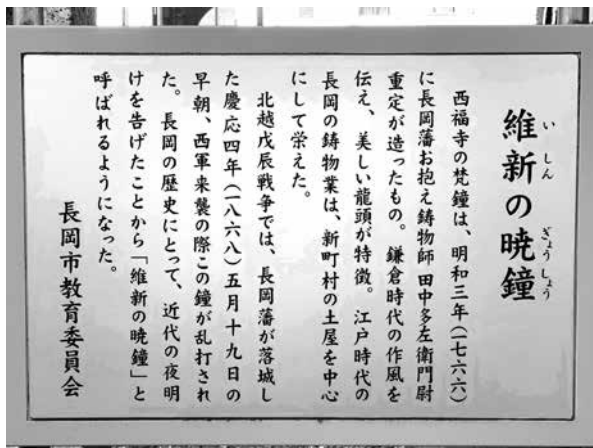
広島・山口など中国地区に広がった分布は、「幕府と長州の戦い」に寺院が関わったことをうかがわせています。

九州地区に広くみられる回答は、西南

図表2 回答の地域分布



資料1 西福寺の梵鐘（新潟教区長岡組西福寺提供）



資料2 「維新の暁鐘」揭示版（同西福寺提供）

戦争に関わったことをあらわした分布状況です。

こうした幕末・明治期の国内戦争に関わることを示す回答の記述内容を具体的に見たものが、図表3（次頁）です（回答文は、語尾など一部変更して記載させていただきますました。寺院・人名の固有名詞は割愛させていただきます）。

2、回答寺院事例

(1) 「北越戊辰戦争と寺院」の事例

図表3の寺院⑩は、新潟教区長岡組西福寺からいただいた回答です。

西福寺の梵鐘は、「維新の暁鐘」として有名です（資料1、資料2）。

梵鐘は地方誌（『長岡市史別編 文化

図表3 記述回答事例

寺院	教区	主な回答内容
①	北海道	兵士宿泊所(約20人位)になった。
②	東北	戊辰戦争で戦死した二本松少年隊「田中三治」の墓がある。
③	東北	戊辰戦争時、新政府軍に寺を占拠され、新政府軍の兵士たちがご本尊、佐原義直座像、芦名盛高座像を鉄砲の的にして遊んだ。ご本尊の台座及び座像に鉄砲の跡が残っている。
④	東京	官修墳墓が数基存在する。
⑤	国府	戊辰戦争、奥羽征討総督の仁和寺の宮嘉彰がその帰途明治元年10月22日当寺へ一泊した。その折額字を染筆。
⑥	新潟	会津兵の陣屋として占拠された言い伝えがある。
⑦	新潟	宿舎になり焼かれた。
⑧	新潟	城下町で、お城近くに寺がありお米(おにぎり)のたき出しをしたと、前坊守からきいている。
⑨	新潟	長岡は、河井継之助のもと西軍(長岡では賊軍とは言わない)として東軍(一般的には官軍)と戦った。長岡城防衛のために建てられたため、長岡の兵士がたてこもって戦った。そのため焼かれたので資料など一切無し。
⑩	新潟	戊辰戦争で本堂等は全焼した。
⑪	新潟	戊辰戦争で寺が会津藩の本陣となった言い伝えがある。
⑫	京都	東軍戦没者碑がある。
⑬	奈良	西南戦争戦死者2名の墓がある。もとは境内地にあり、平成7年以降、寺院管理墓地に移転した。
⑭	兵庫	寺の記録は戦災で焼失したが、『西宮市史』によると慶応3年11月30日長州の第二騎兵隊が進駐した。
⑮	兵庫	門徒1名明治3年松前戊辰戦争で戦死した。 門徒1名西南戦争で明治10年3月20日戦死した。
⑯	山陰	戊辰戦争において、長州方が大森代官所を占領した際に、本堂が捕虜の収容施設となったと伝えられている。
⑰	備後	第一次長州征伐の際宿舎となった記録あり。
⑱	安芸	石碑がある。
⑲	安芸	明治政府の兵士宿舎となった。
⑳	安芸	広島藩の士族・農民・商人などが「神機隊」を結成し、東北地方まで出征した。その本陣が置かれ、訓練等を行っていた。
㉑	安芸	元治元年(1864年)第一次長州征伐の折、拙寺(広島城下寺町に存在)は他の寺町寺院とともに幕府軍の兵舎に利用された。
㉒	安芸	長州征伐の宿となったという記録がある。
㉓	安芸	幕末、長州征伐の折(1次1864.7~12、2次1865.4~66.8)当寺裏山中腹に幕府軍が防塁(=石垣)を作ったものが今も残る。
㉔	安芸	長州征伐の本陣となった。
㉕	山口	第2次長州征伐の折(1865年)、長州方の屯所となった。(芸州口の戦い、1866年6月13日)
㉖	山口	第2次長州征伐の大島口の戦いに於いて住職が戦死した。
㉗	山口	集義隊の宿舎。討幕派隊長毛利謙八暗殺場所である。
㉘	山口	1865(元治2年)大田絵堂の戦いの最後の陣となった。
㉙	山口	過去帖に出兵戦死の記録がある。
㉚	山口	寺族が会津で戦死した。19才。 墓に記入。門徒が明治元年4月13日、宇都宮で戦死した。31才。

寺院	教区	主な回答内容
③①	山口	四境戦争の折、石見の戦いで、長州方の屯所となった。 当時の記録誌「石見の戦」にある事件での当山のかかわりが記されている。
③②	山口	慶応4年1月12日、鳥羽伏見の戦いに応じて長府藩の馬関（下関）防衛の拠点となった。
③③	山口	戊辰戦争の折、奇兵隊の一隊として、参加したといわれている。
③④	北豊	軍馬塚がある。
③⑤	福岡	佐賀の乱の時、兵隊が撃った鉄砲の鉛玉が向拝のところに当たった。 兵隊の負傷者の救護所になり本堂の畳をあげて対応したと伝わる。
③⑥	大分	勤皇の志士、長三州が幕府に追われていた時にかくまった。その期間に長三州が彫りかけた未完成の欄間が庫裡に残っている。
③⑦	大分	以前の本堂（文化年間～大正末）が、西南戦争時、官軍の救護所として利用されていた。
③⑧	大分	西南戦争時、反政府軍をかくまったとして、時の住職が住職の任を解かれた。
③⑨	大分	西南戦争時に、政府軍から火をつけられ、寺院、庫裡が焼失した。
④①	大分	西南戦争の中津隊の出陣式が行われたと伝えられている。
④①	佐賀	佐賀（鍋島）藩崎宿脇本陣となったため佐賀の乱（1874）時に油をかけて寺全体を焼かれた。
④②	佐賀	戦死者の墓がある。
④③	長崎	西南戦争の折、政府軍の屯所として利用された。
④④	熊本	薩軍の司令部と伝わっている。
④⑤	熊本	明治10年に西南戦争が起ると、ご本尊を東託摩郡・健軍（現在、熊本市東区）へ避難した。その不在中、2月24日、熊本城失火に伴い、本堂・庫裡全て焼失した。その後、当時の住職は単身托鉢を敢行し、仮本堂を造立した。
④⑥	熊本	本堂、庫裡が焼き払われた。
④⑦	熊本	山門等に被害がある。
④⑧	熊本	薩摩兵の宿舎として使っていたらしく、仏像等は井戸に吊して避難したと聞いている。山門の扉に銃弾の跡がある（この界限では戦闘は行われてないので恐らく暴発）。
④⑨	熊本	西南戦争時、明治政府軍の宿舎として利用された。
⑤①	熊本	大包帯所となり敵味方なく不傷者の看護がなされその博愛精神が後の博愛社日本赤十字の発祥につながる。当寺の本堂いっぱい運ばれた負傷兵を町内の医師数名で診察した。お寺の横の小さな川で、包帯を洗うと赤い流れになり、たき出しのため米を洗うと、とぎ汁で白い流れとなった、と町の人々の言い伝えになっている。 手当をした場所として当寺の本堂は残っている。 菊のご紋章入りの御文章箱がある。
⑤①	熊本	野戦病院として使用された。
⑤②	熊本	西南の役の際、境内が一時陣地となり、現在の山門が解体され、終了後、組み上げられたと前住職から聞いている。
⑤③	熊本	西南戦争の折、野戦病院（救護所）となった。
⑤④	熊本	官軍の救護所となった。
⑤⑤	熊本	住職が『西南暴動岐記』を著した。
⑤⑥	熊本	官軍側の救護所となった。
⑤⑦	熊本	敗走する薩軍を追う官軍が、肥後峠手前で一時宿泊した。その謝礼として明治13年3月27日征討尽力賞金として4円下賜された。
⑤⑧	熊本	寺院は宿舎であり、以前は看護の方の衣類などあったらしい。
⑤⑨	熊本	官軍の野戦病院として使われた。
⑥①	宮崎	戦死者の葬儀を行った。

財』長岡市、1994年発行) 観光冊子・パンフレットなどで数多く紹介されています。司馬遼太郎も『峠』で、詳しく紹介していますが、司馬は同書で、西福寺藤井慧真住職から手紙をもらったことも書き記しています。同住職の著した『西福寺史』(西福寺、1968年発行)には、さらに詳しく「維新の暁鐘」について記載されています。



資料3 「官軍病院址」を示す石碑 (熊本教区玉関組徳成寺提供)

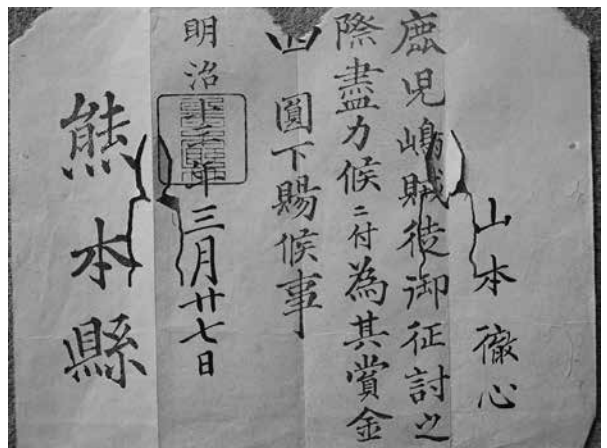
にあわせて、また夜10時半には長岡市を襲った空襲時間にあわせて「維新の暁鐘」が打ち鳴らされました。

(2) 「西南戦争と寺院」の事例

図表3の寺院⑩は、熊本教区玉関組徳成寺から、いただいた回答です。

寺院が西南戦争の戦いの最前線である「官軍包帯所」となり、「日本赤十字発祥の地」のひとつです。境内には、それを記念する石碑が立てられました(資料3

参照)。



資料4 「征討尽力賞金」証書(熊本教区八代組西福寺提供)

図表3の寺院⑪は、熊本教区八代組西福寺からいただいた回答です。官軍がどのように薩摩軍を追って寺院を宿舎としたのか、司馬遼太郎『翔ぶが如く』は詳しく戦況を記載しています。戦場となった土地の寺院はじめ民間施設、民間人が数多く戦争にまきこまれた様子が描かれ

梵鐘は、太平洋戦争のさなかの梵鐘供出時にも「文化財」として供出をのがれ、空襲の戦火も免れて250年あまりの鐘の音色を今に伝えています。2020(令和2)年8月1日の「長岡空襲記念日」には、朝8時には当地の追悼・平和式典

ています。

資料4は、「征討尽力賞金下賜」を示す証書で、当時の西福寺住職が受け取り、現在まで同寺院に大切に保存されてきました。

日本近代の幕開けとなった戊辰戦争、「最後の国内戦争」と言われる西南戦争では、地域の拠点としての寺院が戦争に組み込まれ、あげくの果てに戦火におおわれた事例が少なくありません。このたびの調査では、日本国内で繰り広げられた大きな戦いで、寺院が翻弄されたことをうかがわせる回答が数多く寄せられました。

「宗門寺院と戦争・平和問題」調査は戦争と平和という視点から、各寺院の歴史的事実を記録にとどめるということを目的にしております。回答集計ならびに寺院事例紹介はじめ調査結果の報告は、ひきつづき次号以降の『宗報』等に掲載

させていただきます。次号『宗報』2月号では、「日清・日露から第一次世界大戦までの対外戦争と寺院」をテーマにご報告いたします。

この調査のとりまとめにあたっては、明年度に「宗門寺院と戦争・平和展」（仮称）開催を検討しております。宗門内外における情報共有の機会とさせていただきますたく存じますので、引き続き「戦時調査室」に寺院史料・戦前・戦中写真をお寄せください。

資料のご提供先・お問い合わせ先

【戦時調査室】

開室時間：火・水・木 10時～12時、
13時～16時（宗務所休日は除く）
〒600-8349

京都市下京区堺町92

浄土真宗本願寺派総合研究所内

「戦時調査室」

Tel/075-354-5087

Fax/075-354-5360

Mail/senji-chousa@hongwanji.or.jp

新田光子（戦時被災等調査委員会委員）

渡辺慶子（調査研究員）

牛島悠紀（調査研究員）